

# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第22号 主のご降誕（2021年12月25日）発行



## 二人の旅

洗礼者ヨハネ 内藤 孝文 神父

ヨセフはマリアを伴って、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムの町までの旅をしなければなりませんでした。

その旅はパレスチナの地を北から南へ直線距離で約150キロ。山や丘、曲がりくねった道を歩くと約220キロ(釧路から帯広、狩勝峠を通過して富良野まで)はあったと言われています。しかもマリアは、いつ生まれてもおかしくない出産間近の身です。さらに、旅人が昼間でも強盗や盗賊に襲われる危険がありました。ですから二人の旅がどれだけ大変で危険なものであったか、命懸けに近い旅であったかが分かると思います。

二人が、そのような旅を強いられたのは、



ローマ皇帝アウグストゥスが出した、全世界(支配下地域)の住民に登録をせよとの勅令のためだったと、福音書は語ります。ローマ帝国は、傀儡

(かいらい) 政権であるヘロデ王家を立て、ユダヤ人の宗教的な自由を認めつつ、住民に税金を掛けることによって植民地支配の利益を得ていました。この税を徴収するために行なわれたのが「住民登録」でした。身重のマリアを連れたヨセフは、このローマ帝国の支配力に振り回されて、苦しい旅を強いられることになったのです。

当時、ローマ帝国が用いた徴税方法は、納税能力の差に関係なく、年齢・性別を問わず、各個人に対して同額を課税する「人頭税」と呼ばれるものでした。人頭税は極めて過酷な税制度だったと言われていています。歴史の中で、どれほど多くの人達がこの人頭税に苦しめられていたことでしょう。

ローマ帝国は皇帝アウグストゥスの時代に平和と安定を手に入れました。しかし、その下に、権力者に逆らうことも許されず、その命令に翻弄され、高い税金を払いながらも、懸命に生きようとする、多くの人達が支えていたのです。二人の旅はそれを物語っているのです。そしてそれは、私達が歩んでいる旅にも繋がるものではないでしょうか。そのような私達に神は語り掛けます。

「恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。  
今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。

この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである」と



## 追悼

渡辺義行神父様、山口市郎さんを偲んでゆかりの方に原稿を依頼しました。

山口市郎さんを偲んで（娘さんからの原稿）  
父と過ごした1年

セシリア 山口 桂

久しぶりに近所の公園を散策した。昨春は緊急事態宣言下で、連日のように新緑の中を歩き回っていたが、この1年はすっかり足が遠のき、枯葉に埋もれた公園は晩秋の佇まいであった。

昨年7月に父が突然倒れ、介護する母を手伝うために釧路と札幌を行き来する生活が始まった。それまでは80代ではあるが、元気で自立した高齢者と思っていた両親が年相応に老いている現実を突きつけられ、のんきに過ごしていた日々を悔やむことになった。

脳腫瘍の手術と放射線治療を終えて退院した父は見るからに痩せて弱々しくなっていたが、ふらつきながらも自由に家の中を歩き、食欲旺盛で明るく前向きに毎日を過ごしていた。開頭手術のことも「病院で頭をカチ割られたよ」と言うなどユーモア精神も健在で

あった。なので介護と言っても薬の管理や外出時の介助などが主で父のペースに合わせて一緒にゆったりと過ごす毎日であった。

時々、父の少年時代の話を聞かせてもらった。相当な腕白だったらしいが、祖父が徴兵され、函館から援農に来ていた中学生から音楽の本をもらい、それが音楽との出会いであったこと、山形出身の祖父がいつまでも北海道の寒さや生活になじめず苦勞しているのを見て可哀相に思ったこと、貧乏で働きづめだった祖母の唯一の自慢が勉強のできる長男（父のこと）だったことは照れ笑いしながら話してくれた。

四十数年ぶりに両親と暮らしたこの1年で少しだけ若き日の父を知り、年老いた母の今を知った。苦しいけれど貴重で豊かな1年であった。母との日々はこれからも続くが気丈な母とはもう少し緊張関係を保ちながらつかず離れずでやっていきたいと思っている。



## 渡辺神父様を偲んで

### ●短歌

小柄なれば背すじ伸ばして、祭壇に御声凛々しく、道を説く君  
司祭叙階五十周年は一年前おだしき御声もはや聞かれず  
ふくらかに遺影の君は微笑みて問わば答への返りくるごと  
久に逢ふ君なれ棺に眠れるは生前の面いづこにもなく

エリザベト 鈴木 みよ子

### ●根室教会の皆様から渡辺神父様への追悼メッセージ

祈りの聖霊とイエス様と神に導いてくださった渡辺神父様へ！  
私の天国への旅立ちがお許しいただけるときは、どうか根室駅でお迎えしたように  
天国駅でお会いできますように。神に感謝！

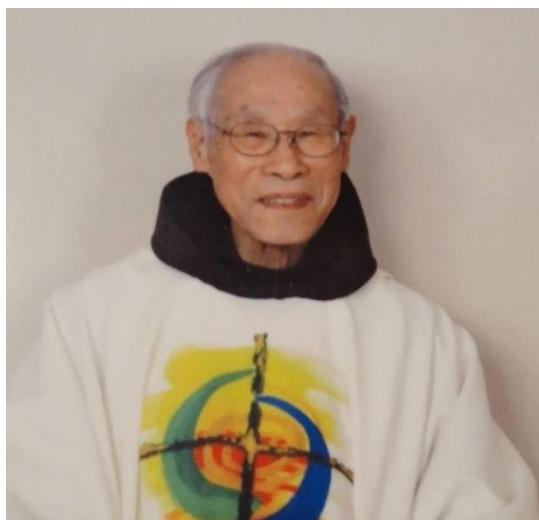
ペトロ 藤井 景介

今朝、朝の祈りの中で渡辺神父様への溢れんばかりの感謝の気持ちに満たされました。  
大好きな景介を神様のところまで少しずつゆっくりトリップさせていただき、誠に有難  
うございました。

今、信仰、愛、赦しの中ですべての人々は赦しの大切さを置き去りにしようとしており  
ます。赦し合い、助け合い、今、神様が赦すことから始まる愛の深さに気づく、奥深い  
神秘に気づく、私たちの霊的な成長をお待ちのことと思います。

渡辺神父様、全てに感謝致します。

サラ 藤井 美紀



ヘルマン渡辺神父様 感謝！

今も釧路修道院にいらっしゃる感じがしてなりません。いつも穏やかな微笑みで声かけをしてくださり、ホッと安心してました。心より感謝いたします。

♪いつも喜んでいなさい！

たえず祈りなさい！

すべてのことについて感謝しなさい！

と共に歌ってくださったこと、いつも心に置き、祈りのうちにお会いできますように

ヴェロニカ 平木 タケ

私の手帳の中に 2 枚の写真が入っています。

どちらも根室教会のマリア様なのですが、見過ごすほどで美しいと思ったことはなかったのです。

渡辺神父様の写真になるとそれが本当にやさしく、美しいマリア様になるのです。

それがとてもうれしく、誇らしく思います。

渡辺神父様に合掌。

アポロニア 岡田 真紀子

神父様、たくさんの教えとお恵みと笑顔。神父様の笑顔が大好きでした！！

エリザベート 浮田 恵美

わたなべしんぷさま ありがとう！

トマス・フランシスコ 浮田 れんしろう

あなたの人生は祝福でした。神の真の僕。

いつも神は私たちすべてを愛していると教えてくれました。神は私たちを決して見捨てない。神の私たちへの愛は純粋で永遠です。

天国の栄光な場所で喜ぶことができますように。ありがとうございました。

Your life was a blessing. A true servant of God.

You always taught us that God loves all of us.

That God never abandons us.

That God's love for us is pure and everlasting.

May you ever rejoice in the glorious place in heaven. Thank you

三瓶 テレサ Family

## ご挨拶

フランチェスカ <sup>かどや</sup> 角谷 まこと



はじめまして。角谷まことと申します。10月に仕事の転勤で釧路に引っ越してきました。釧路の前は2年少し札幌に住んでましたが、その前は実家のある十勝の池田でした。ですので、実は釧路での合同ミサによく参加していたのです。そのうえ、内藤神父様、ラザロ神父様が池田教会の神父様だったこともあり、まったく緊張しないで釧路教会にやってきました(笑)。さらに、子供の頃…と言っても幼稚園に入る前ではありますが、釧路に住んでいた時期もあったりして、釧路とは結構ご縁がありますね。

我が家は父が転勤族だったので、釧路をはじめ帯広、夕張など、いろんなところに引っ越しをして、教会もその度が変わっています。バスを乗り継いで1時間くらいかけて行った教会もありました。今は車で移動できるので、多少の距離は平気になりましたが、子供の頃は行くだけでヘトヘトになって、ごミサの間ずっと眠りっぱなし…なんてこともあ

りました。でも教会に行くと、歳の近い子供たちがいるので、会えるのが楽しみで頑張っていたように思います。夏期学校とか楽しかったですね。

旅行に行ったら、旅行先の教会でごミサに与ることもあります。その土地によっては自分の教会とは少し違ったところもあって、それが楽しいです。今はコロナでなかなか旅行もいけないですが、いずれまた…！

私自身、特にこれといった特技などはないですが、お手伝いできるところはできる限りやりたいと思いますので、何かありましたらお声をかけていただけたら、と思います。

それでは皆さま、よろしくお願ひします。



## 父よ、私の中にイエスが生きるように

デジレー・メルシエ枢機卿

私の父なる神よ  
み前にひざまずき、願います  
あなたの聖霊によって信仰・希望・愛の徳を私の内に豊かにしてください。

キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さを思いめぐらす力をお与えください

父よ、私の中にイエスが生ける方としてとどまりますように  
イエスを通してあなたの愛を分けていただけますように

私は清い者ではありません  
しかし、あなたの御子の血が私を清めます

暗闇、虚偽、死の中で私はあなたから遠ざかっています  
しかしわたしにとってイエスは道・真理・命なのです

父よ、自分自身に死ぬすべをお教えてください。

そしてイエスが私の唯一の道となるとき  
父よ、あなたは愛深く喜んでくださるのです

ドン・ボスコ社「父なる神への祈り」より



### 編集後記

待降節に入り、コロナ禍での2年目のクリスマスを迎えます。1年前のよきおとずれ第19号を読み返してみました。「渡辺神父様からのお便り」の中で、面会謝絶のため誰にも会えず孤独を味わいました。と書かれていました。巻頭言では内藤神父様が人と人との距離が離れていくコロナ禍で、そこに残るのは孤独（感）です。と書かれていました。

『イエス様は私達と共にいてくださる』共にいてくださるイエス様の存在に感謝し、孤独に悩む人のために「あなたは一人ではない」と祈りたいと思います

主のご降誕おめでとうございます。(K.K)

カトリック釧路教会 <https://kushiro-catholic.cloud-line.com/>

〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会